

自然観察会報告
静岡ガス静岡支社構内のビオトープでの自然観察会
横山謙二



魚の説明をする渋川先生

10月18日の日曜日に静岡市葵区池田の静岡ガス静岡支社構内のビオトープで観察会を行いました。この観察会は、昨年行う予定でしたが、残念なことに雨で中止になってしまいましたが、今年は天気恵まれ、無事、観察会を行うことができました。

この観察会を行った静岡ガス静岡支社は、大谷放水路沿いの静岡平野の東側に位置し、そのまわりは、自然環境がほとんど残されていない市街地の中にあります。それでも構内の池には、県内でほとんど見ることができなくなったミナミメダカが生息しています。ここに生息するメダカは他の地域のメダカと交雑していない、静岡に古くから生息していたオリジナルの個体群だそうです（自然史しずおか43号P6参照）。この構内は、普段、あまり一般の人が入らないところで、他の地域からメダカを持ち込まれ、交雑が進む心配のない環境が保たれています。

さて観察会のはじめに、静岡ガス職員の方から、構内とビオトープの生物についての説明がありました。次に、ふじのくに地球環境史ミュージアムの研究員の渋川浩一先生が、ビオトープのメダカやモツゴなどの魚についての説明をしてもらいました。

その後、ザリガニ（アメリカザリガニ）釣りを行いました。アメリカザリガニは、すぐにおもしろいほど釣れ、始めて1時間で数十匹にもなりました。ザリガニ釣りは楽しいのですが、メダカが生息する池に、外来種のアメリカザリ



ザリガニ釣りをする参加者

ガニが大量にいることがわかり、驚きました。

午後は、構内の各池や林を歩き、昆虫などの観察を行いました。構内の各池では、アカネトンボ属のマユタテアカネ、ヤンマ科のギンヤンマ、イトトンボ科のアオモンイトトンボ、クロイトトンボなどが観察されました。また敷地内の南にある貯水池ではウスバキトンボと思われるヤゴの羽化後の抜殻がたくさん見られました。観察されたトンボはすべて普通に見られるトンボですが、平野が開発されるにつれ、田んぼ・湿地が減少する現在では、このような水場が残されているところは、トンボにとっても貴重な環境なのかもしれません。

その他の昆虫として、構内の林や植込みでヤマトシジミやツマグロヒョウモン、敷地内のクスノキでアオスジアゲハの幼虫が観察できました。また、カブトムシの幼虫を育てているところがあり、その腐葉土の中には大きな幼虫がゴロゴロとしていました。来年、夏には立派なカブトムシになりそうです。

今回の観察会では観察されたメダカやトンボなどは、田んぼや湿地が広がっていた時代には、どこでも当たり前のように見られたはずですが、これらの生物のためにも、静岡ガスのビオトープのようなところは、いつまでも残していきたいものです。

最後に、観察会の場所を提供し、ご協力していただいた静岡ガスの皆様にお礼申し上げます。